

豊庄だより



第 739 号 2023 年 1 月 10 日

皆様、あけましておめでとうございます。福岡の正月は比較的暖かい日が続いていました。しかし、その一週間前、クリスマス頃は非常に寒くアメリカでは家ごと凍る程でした。保育園でも印象的な出来事があったので紹介します。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達



たので紹介します。

23日(金)、福岡は暴風雪警報が出るほどの天気でした。風も強く雷が鳴り、雪も少々積もりました。子どもたちも「雪だー」と狂喜乱舞して外に出ていきました。ひまわり組さんが「ほら雪だよー」と私に見せてくれました。よく見るとそれは雪ではなく、直径7ミリほどの氷でした。そこで私は「実はこれは雪じゃないんだよ〜」という、「えー！ そうなのー」という声と共に、「知ってる！ これ、霰(あられ)だよな？」と予想外の返事が返ってきました。いくらひまわり組とはいえ霰がわかるとは思

っていませんでした(私はポケモンをやった小学校3年生くらいまで知りませんでした)。私は更にもう一声知識を深めてもらうために「霰を知ってるなんてすごいね！ でも実はこれ雹(ひょう)って言うんだよ」という「ひょう？ ひょう！」「トラさん？」など言葉の響きが気に入ったのか連呼したり、動物のヒョウと関連付けたりと、これまた驚かされました。知ってる言葉と関連付ける能力があるとはかしこいなあと思いました。そこで「あられは直径5ミリ未満で、ひょうは5ミリ以上だよー」と言ってみたのですが、これには、ほか一んとされてしまいました。残念！ 将来みんなが大きくなったら「大きな雹は1メートル以上もあって牛さんが死んじゃったんだよー」とか「雷が鳴っていると暖かい日・所でも雹が降りやすいんだよー」とか「雪と雹は成長の仕方が違うんだよー」など雑学を教えてあげたいです。

そして、同日もう一つ出来事がありました。ひまわり組さんがチューリップを植えていたのですが、ある優しい子が「園長先生助けて！ トカゲさんが弱ってる！」と葉っぱに乗せてヤモリを園長先生に持ってきました。そしてそれを「舜、なんとかせい！」と渡されました。ヤモリは縮こまっており全く動きませんでした。葉っぱに引っ付く力もなく、普段からは考えられないほど滑っていました。ひとまず対処法をインターネットで探してみました。冬眠から掘り起こされたのかも、と思ったので急いで調べてみると「ヤモリは冬眠しません。日本の冬の温度に適応して冬でも餌と水を飲みます。しかし、動きが鈍くなっています。」とのことでした。変温動物は全部冬眠するものだと思っていたのでこれには驚きました。この情報を見て対処の方針を「寒さを凌げるちょうど良い所に逃げられるように暖めて水を飲ませて返す」としました。幸いヤモリの飼育法に越冬のさせ方もあったので「急に暖めない」という注意事項を守りながら様子を見ました。20分ほどすると喉を動かし始め、40分ほどで少しバタバタと動けるようになりました。園長に報告すると「ひまわり組に持って行って大丈夫だったと安心させてあげてくれ」とのことだったので見せに行きました。すると当の持ってきてくれた子は興味をなくしており(残念!)、それ以外の子が「わー！ トカゲ！」「もう大丈夫なの？」と見に来ました。「あったかくしたからこのヤモリは大丈夫だよー」と伝えると皆安心してくれました(トカゲとヤモリの違いを言いたくなりましたがこらえました)。その後ヤモリを裏門の藪の所に放すとトカゲは素早く去っていきました。帰りに「あのトカゲはどうなったのー？」と聞いてくる子が多かったのですが「元気に逃げていったよー」と伝えると、安心したやらちょっと残念だったのか、元気良く！ ではない「よかったあ」が返ってきました。※今号も舜先生が書きました。私(園長)は、2枚の写真と添削です。

